

『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』

— 「評価」 関連部分の差し替え用資料 —

『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』の発行後、令和2年3月に、国立教育政策研究所より『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』が発表され、小学校においては、令和2年度より新学習指導要領(平成29年告示)に依拠した「3観点」による評価を行うこととなりました。

これを受けて、『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』の内容のうち、第1部のⅢ「学習指導計画の作成」中の74～85ページ、及び90～94ページの「評価」に関わる部分については、上記に沿った内容に変更する必要性が生じたため、差し替えるべき内容をまとめた冊子を用意することといたしました。

下記部分に関しては、本冊子の内容に読み替えてご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

4 音楽科の学習指導案	
(1) 総論 (p.74)	2
(2) 低学年における学習指導案の例 (p.76)	4
(3) 中学年における学習指導案の例 (p.79)	7
(4) 高学年における学習指導案の例 (p.82)	10
6 音楽科の評価 (p.90)	14

※ () のページは『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』の該当ページ

4 音楽科の学習指導案

(1) 総論

本書p.61からの「(2)音楽科の学習指導計画作成における基本的な考え方」で述べたように、年間学習指導計画や題材の学習指導計画については、各教科書会社が公表している資料を参考にすることができる。

しかし、学習指導案は、授業を受ける児童の実態を踏まえて、授業者が作成するものである。したがって、同じ学習目標で同じ教材を用いても、全く同じ学習指導案はないといってよい。

学習指導案の様式は様々である。共通するのは、「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」「何を」「どのように」学習し指導するかを明記することである。学習指導案の項目例を紹介する。

学習指導案 項目例2

小学校○学年 音楽科学習指導案	
実施日時	○年○月○日
場所	第○音楽室
指導学級	○年○組 (○名)
指導教諭	○○○○○
実習生	○○○○○
1. 題材名「 」(○時間扱い)	
2. 教材名「 」	
3. 題材の目標	
4. 指導事項との関わり	
5. 題材の評価規準	
6. 指導観	
(1) 題材観	
(2) 児童観	
(3) 教材観	
7. 題材の指導計画と評価計画	
8. 本時の学習指導	
(1) 本時の目標	
(2) 展開	

学習指導案 項目例1

小学校○学年 音楽科学習指導案	
実施日時	○年○月○日
場所	第○音楽室
指導学級	○年○組 (○名)
指導教諭	○○○○○
実習生	○○○○○
1. 題材名「 」(○時間扱い)	
2. 題材設定の趣旨	
①教材と教材選択の理由	
②児童の実態	
③本題材で扱う学習指導要領の内容	
3. 題材の目標	
4. 題材の評価規準	
5. 題材の学習指導計画	
6. 本時の学習指導 (第○時)	
(1) 本時の目標	
(2) 展開	

本書では項目例1で例示するが、どのような様式を求められていても学習指導案を作成できる力を身に付けてほしい。そのためには、下記が重要である。

- ・その題材や本時の学習で、児童に何を身に付けさせたいかを明確にする。
- ・児童の実態をよく把握する。
- ・教材研究を十分に行う。

そして、児童の学習状況をイメージしながら作成することも大切である。教職課程における教科教育法の中で、作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行ったり、教育実習の前に実習生同士でプレ授業を行ったりして、実践に適した学習指導案に手直ししてほしい。

チェックリスト 作成した学習指導案を見直そう（項目は前ページ例1を用いている）

<input checked="" type="checkbox"/>	項目	見直す視点
<input type="checkbox"/>	校種・学年・教科名	・適切に記入しているか。
<input type="checkbox"/>	「いつ」「どこで」「誰が」「誰に」	・適切に記入しているか。 ・児童の人数は、不必要に男女を区別して記入していないか。
<input type="checkbox"/>	題材名・○時間扱い	・学ぶ内容や活動が分かりやすい題材名であるか。 ・題材を扱う時間数が書かれているか。
<input type="checkbox"/>	題材設定の趣旨	①教材と教材選択の理由が適切に記入されているか。 ②児童の実態について、本題材に関わる学習経験や態度などが書かれているか。 ③本題材で扱う学習指導要領の内容（指導事項との関わり）が示されているか。その際、本書p.62の「6. 題材の目標及び題材構成の際の留意点」を踏まえて、 ・A表現ではア、イ、ウの指導事項、B鑑賞ではア、イの指導事項が含まれるとともに、〔共通事項〕(1)が含まれているか。 ・本題材の学習において、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素が明記されているか。
<input type="checkbox"/>	題材の目標	・学習指導要領の目標及び内容に合わせて、資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）が盛り込まれているか。
<input type="checkbox"/>	題材の評価規準	・表現領域では、「知識」「技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点が示されているか。鑑賞領域では、「知識」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点が示されているか。 ・本題材で扱う学習指導要領の内容と学習評価との整合性はあるか。
<input type="checkbox"/>	題材の学習指導計画	・各次（時）の学習内容と評価規準との整合性はあるか。 ・何の教材を用いて、どのような内容を、どのような学習を通して身に付けるのかが分かりやすく書かれているか。 ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識して作成しているか。
<input type="checkbox"/>	本時の学習指導	(1)本時の目標と、本時で重点を置いて育成する資質・能力、評価の観点との整合性はあるか。 (2)展開は、学習の過程や結果における児童の姿が具体的に分かるように書かれているか。

(酒井美恵子)

(2) 低学年における学習指導案の例

第1学年 音楽科学習指導案

実施日時：〇〇年〇月〇日 第〇校時

指導学級：〇〇市立〇〇小学校

第1学年 〇組 (〇名)

実習生：〇〇〇〇 (印) (指導教諭：〇〇〇〇)

1. 題材名「いろいろな音を見つけて 手拍子リレーを楽しもう」(2時間扱い)

2. 題材設定の趣旨

①教材と教材選択の理由

「しあわせなら 〇〇たたこう」は、〈幸せなら 手をたたこう〉(木村利人日本語詞/アメリカ民謡)を基に、〇〇に入る体の部分や打ち方を工夫する音楽づくりのための教材である。音楽づくりの条件を設定するに当たり、次の3点に留意した。

(1)音素材を手の合わせ方や、手で体のいろいろな部分を打って出せる音に限定し、体を使って出せる音に興味・関心をもつようにしたこと。(2)1人1個の手拍子リレーにして、児童がリズムではなく、音色そのものに集中できるようにしたこと。(3)友達とつなげて表現する活動を通して、音によるコミュニケーションの場を設定したこと。

②児童の実態

入学したばかりの1年生は、就学前の幼稚園、保育園、家庭における音楽経験が様々である。そこで、常時活動では、拍に合わせた手拍子リレーやなるべく速くつなげる手拍子リレーを取り入れ、拍感や聴く力を育んできた。歌唱の活動においても、〈ドレミの歌〉を歌いながら手合わせをしたり、〈幸せなら 手をたたこう〉を歌いながら歌詞の内容に合う動きを付けたりするなど、体を動かす活動を通して、拍感及び互いの音を聴く力の育成を目指してきた。

③本題材で扱う学習指導要領の内容

「A表現」(3)音楽づくりの事項ア(ア)、イ(イ)、ウ(ウ)、〔共通事項〕(1)ア

※本題材では「音遊び」を中心に扱う。

本題材において、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色

本題材における音色の学習では、手で体のいろいろな部分を打って出せる音の高低や長短、硬さ、柔らかさなどを中心として扱う。そして、手拍子リレーの活動を通して、友達の音色の特徴に気づき、友達と違う音色を選んで即興的につないでいく面白さ等を味わってほしいと願っている。

3. 題材の目標

- 手で体のいろいろな部分を打って出せる音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、音色を生かしながら即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。
- 音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して音楽づくりの発想を得る。
- 手で体のいろいろな部分を打って出せる音の特徴や、即興的に表現することに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>☑手で体のいろいろな部分を打って出せる音の特徴について、それらが生み出すよさや面白さ、美しさなどと関わらせて気付いている。</p> <p>☑発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、音色を生かしながら即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>☑音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>☑手で体のいろいろな部位を打って出せる音の特徴や、即興的に表現することに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

5. 題材の学習指導計画（全2時間）

時	◎ねらい ○学習内容	評価の観点		
		知・技	思	態
第1時	◎いろいろな手拍子の音の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付く。			
	<p>○右手と左手の合わせ方をいろいろと試して音を出し、面白い音を見つける。</p> <p>○1人1個の手打ちリレーをして、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、様々な音色を聴き取る。</p> <p>○音の出し方について意見交換をしながら工夫する。</p> <p>○友達の打ち方をまねたり、友達と違う音色でつなげたりする。</p>	↓ ☑	↓	↓
第2時 (本時)	◎手で体のいろいろな部分を打ちながら、音楽づくりの発想を得て、即興的に表現する。			
	<p>○既習曲〈幸せなら手をたたこう〉を替え歌にし、「○○たたこう」をいろいろな部分に替えて、様々な音色を聴き取る。</p> <p>○本時の目標を共有し、条件に応じて、手で体のいろいろな部分を打って、音楽づくりの発想を得る。</p> <p>○友達と違う音色でつなげ、クラス全員で1人1個の手打ちリレーをする。</p> <p>○本題材の学習を振り返る。</p>	↓ ☑	↓ ☑	↓ ☑

6. 本時の学習指導（第2時）

(1) 本時の目標

手で体のいろいろな部分を打ちながら、音楽づくりの発想を得て、即興的に表現する。

(2) 展開

○学習内容 ・学習活動	◇教師の働きかけ ◆評価規準〔評価方法〕
<p>○既習曲〈幸せなら手をたたこう〉を替え歌にして、様々な音色を聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4番を全員で歌う。 ・替え歌にして、様々な音色を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇楽しい雰囲気をつくる。 ◇歌詞が伝わるように、明確に発音することを助言する。

<p>【替え歌の条件】</p> <p>①順番に「手をたたこう」の「手」を「肩」や「お腹」など、体のいろいろな部分に替えて、「○ ○たたこう」と歌う。</p> <p>②聴き取った児童は、○○の部分を手で打つ。</p>	<p>◇クラス全員の音が集まると、音色の違いが明確になることを伝え、耳を澄まして聴くように助言する。</p>
<p>めあて：てで からだのいろいろなところをうって おもしろいおとを みつけて つなげよう</p>	
<p>○本時の目標を共有し、手で体のいろいろな部分を打って、音楽づくりの発想を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音遊びの条件を知る。 <p>【音遊びの条件】</p> <p>①手で体の好きな部分を1回だけ打つ。</p> <p>②打つほうの手の形を変えてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分で面白い音を見つける。 ・グループに分かれて、1人1個の手打ちリレーをする。 ・いくつかのグループが中間発表する。 ・音の特徴や表現の仕方について、気付いたことや感じたことを発表し合う。 <p>【予想される児童の発言】</p> <p>「指先だけを使っておでこを打つたら、ポンッと いう短い音がした」 「手をパーにしておなかを打つと、バンという低い音がした」</p> <p>○友達と違う音色でつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を聴いて得た発想を生かして、グループごとに自分なりの表現をいろいろと試す。 ・クラス全員で1人1個の手打ちリレーをする。 ・友達の表現をよく聴き、なるべく友達と違う表現でつなげていく。 	<p>◇いくつかの事例を示し、音遊びの条件を理解できるようにする。</p> <p>◇一人一人が面白いと思う音を見つけるように、声掛けをする。</p> <p>◇打ち方を工夫して面白い音を見つけたグループを選んでみんなに紹介する。</p> <p>◇耳を澄ませ音色を聴き、打ち方をよく見るように助言する。</p> <p>◇体のどの部分をどのような手の形で打つと、どのような音がしたのか、オノマトペなどを使って具体的に伝えるように助言する。</p> <p>◆音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。㊦〔行動の観察・発言内容〕</p> <p>◇「友達の打ち方をまねたり、少し変えたりしてもいいよ」のように、いろいろな表現を試すきっかけとなる言葉掛けをする。</p> <p>◇等間隔の拍で音をつなげる必要はないことを確認して、音色の面白さをよく聴き取り、友達がどのような打ち方をしているかをよく見るように助言する。</p> <p>◆発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、音色を生かしながら即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。㊧〔演奏の聴取〕</p>
<p>○本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音遊びの活動を通して、楽しかったことや学んだことを発表し合う。 	<p>◇個々の学びを全体で共有、共感できるように価値付ける。</p> <p>◆手で体のいろいろな部位を打って出せる音の特徴や、即興的に表現することに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。㊨</p>

(3) 中学年における学習指導案の例

第4学年 音楽科学習指導案

実施日時：〇〇年〇月〇日 第〇校時

指導学級：〇〇市立〇〇小学校

第4学年 〇組 (〇名)

実習生：〇〇〇〇 (印) (指導教諭：〇〇〇〇)

1. 題材名「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」(6時間扱い)

教材名〈ゆかいに歩けば〉(保富康午 日本語詞/メラー 作曲/加賀清孝 編曲)

〈陽気な船長〉(市川都志春 作曲)

2. 題材設定の趣旨

拍の流れにのり、リズムを感じ取って歌ったり演奏したりすることを大切に指導してきたので、本題材でも拍の流れに気を配って歌ったり演奏したりしながら、さらに旋律の特徴に気づき、そのよさや面白さを味わい、自分の思いを膨らませて生き生きと表現してほしい。

歌唱で扱う〈ゆかいに歩けば〉は、スタッカートやレガートなどの特徴や旋律の音の上行に伴う強弱の変化など、多様な表現を味わうことが期待できる。器楽で扱う〈陽気な船長〉は、タンギングと息の使い方を変化させながら表現を楽しむことができる。

指導に当たっては、聴き取った旋律の特徴やそこから感じ取ったことを表にまとめたり、旋律を図で表すなど可視化して歌ったり演奏したりすることで、旋律の特徴に意識を向け、それらを生かした表現を目指す。さらに、自分の意図する表現が実現する喜びを感じ取りながら、多様な表現を味わうことをねらいとして、本題材を設定した。

3. 題材の目標

- 曲の特徴を捉えた表現をするために、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、必要な技能を身に付ける。
- 旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- 曲の特徴を捉えた表現を工夫する学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組む。

4. 本題材で扱う学習指導要領の内容

「A表現」(1)歌唱の事項ア、イ、ウ(イ)、(2)器楽の事項ア、イ(ア)、ウ(イ)

〔共通事項〕(1)思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

旋律(スタッカート、レガート)、音楽の縦と横との関係(2つの旋律の重なり方)

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
☑曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。(器楽、歌唱)	☑①旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り	☑曲の特徴を捉えた表現を工夫する学習に興味・関心を持ち、

<p>【技①】思いや意図に合った表現で演奏するために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律の特徴に合ったタンギングの仕方でもリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p>	<p>ながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(器楽、歌唱)</p>
<p>【技②】思いや意図に合った表現で歌うために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p>	<p>【思②】旋律、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p>	

6. 題材の学習指導計画 (全6時間)

時	主な学習活動	主な教師の関わり	評価規準
第1次 旋律の特徴を感じ取って演奏する。〈陽気な船長〉			
1	<p>①教師の範奏を聴き、音楽のまとまり (ア-イ-ア) をつかむ。</p> <p>②旋律の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカート ・レガート 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴が感じ取れるように範奏する。 ・フレーズごとに模唱、階名唱をするよう促す。 ・聴き取ったこと、感じ取ったことについて意見交換したり学習カードにまとめたりする場をもつ。 ・音楽のまとまりや旋律の特徴などを視覚的にも理解できるように、図や表で示す。 	
2	<p>③スタッカートを生かしたタンギングや息の使い方を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タンギングや息の使い方、運指などについて個別指導をする。 	
3	<p>④旋律の特徴を生かし、スタッカートを意識した表現を工夫して演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループになり、表現を追求する場をもつ。 	
第2次 旋律の特徴を感じ取りながら、それを生かした表現を追求する。〈ゆかいに歩けば〉			
4	<p>⑤教師の範唱を聴き、気付いたことや感じたことについて意見交換をしながら、旋律の特徴をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことや感じ取ったことを板書にまとめ、曲想と旋律の特徴との関わりに気付くようにする。 ・フレーズごとに階名唱をするよう促す。 	
5 (本時)	<p>⑥4人グループになり、旋律の特徴を生かした表現を追求する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッカートとレガートを意識した表現を工夫できるように促す。 ・拡大楽譜を用意し、グループごとに表現の工夫を書き込めるようにする。 	
6	<p>⑦グループごとに工夫した表現を発表し合う。</p> <p>⑧曲のよさを味わいながら、全員で二部合唱し、題材の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図に着目して聴き合うように促し、気付いたよさについて意見交流をする。 ・表現を追求できた学びのよさを認め、称賛する。 ・学んだことを生かして表現し合い、振り返りを学習カードにまとめる。 	

7. 本時の学習指導（第5時）

(1) 本時の目標

㊦と㊧の旋律の特徴の違いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	支援・援助と評価								
導入	学習課題：旋律の特徴を生かした歌い方を工夫しよう。											
	① 〈ゆかいに歩けば〉を歌う。 ②表現の工夫をするために、㊦と㊧の特徴の違いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦と㊧の部分に分かれていたな。 スタッカートなどを意識して歌おう。 ㊦は弾んだ感じになるようにしっかりと息を吸って歌おう。 ㊧は滑らかに歌うと違いがはっきりする。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した旋律の特徴を思い浮かべて歌うよう促す。姿勢、呼吸、発音等に気を配りながら、のびのびと歌唱させる。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">㊦のせんりつ</td> <td style="text-align: center;">㊧のせんりつ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">気付き</td> <td style="text-align: center;">♪が多い スタッカート</td> <td style="text-align: center;">♩のリズム 長い音伸びる音 音が高くなる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">感じ</td> <td style="text-align: center;">弾む感じ 元気に歩く様子</td> <td style="text-align: center;">気持ちよく 背伸びしている</td> </tr> </table>		㊦のせんりつ	㊧のせんりつ	気付き	♪が多い スタッカート	♩のリズム 長い音伸びる音 音が高くなる	感じ	弾む感じ 元気に歩く様子
	㊦のせんりつ	㊧のせんりつ										
気付き	♪が多い スタッカート	♩のリズム 長い音伸びる音 音が高くなる										
感じ	弾む感じ 元気に歩く様子	気持ちよく 背伸びしている										
展開	学習課題：スタッカートとレガートを意識して表現を工夫しよう。											
	③グループで表現を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦は、しっかりと息を吸って歌うと弾む感じになるね。 ㊧は弱く歌い始め、だんだん強くしていくと広がっていく感じがするよ。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 拡大楽譜とマジックを用意し自由に書き込みながら工夫できるようにする。 オルガンや指導用CDを用意する。 旋律の特徴をイメージしやすいように、拡大楽譜を見ながら児童と一緒に歌う。 								
	④考えたアイデアを発表し合い、歌って試す。	<ul style="list-style-type: none"> A班はスタッカートをしっかり跳ねて歌っていて元気が出るね。まねをしよう。 B班は上手にクレシェンドしていて、音楽が盛り上がるね。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> グループで考えたアイデアを発表し合い、実際に歌って試す場をもつ。 表現の工夫が分かりやすいように、一緒に歌う。 互いの工夫のよさを認める。 								
⑤ふさわしいと考える表現の工夫をカードにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦はおなかを使って声を弾ませ、㊧は滑らかに歌う。 だんだん強くして曲の山を盛り上げるように歌う。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに自分の考えを記入するよう促す。 ⑤②…学習カード、発言内容、観察									
まとめ	⑥各自の思いを込めて、まとめの歌唱をする。	<ul style="list-style-type: none"> 元気に歩いている様子や、高原でいい気分で歌う感じが表現できて楽しかった。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の特徴にふさわしい表現を工夫しながら歌ったり、呼吸を意識して効果的な強弱表現をしながら歌ったりしている姿を捉え、称賛する。 								

(4) 高学年における学習指導案の例

第6学年 音楽科学習指導案

実施日時：〇〇年〇月〇日 第〇校時

指導学級：〇〇市立〇〇小学校

第6学年 〇組 (〇名)

実習生：〇〇〇〇 (印) (指導教諭：〇〇〇〇)

1. 題材名「旋律の変化を味わおう」(5時間扱い)

教材名〈ハンガリー舞曲 第5番〉(ブラームス 作曲/シュメリング 編曲)

〈気球にのってどこまでも〉(東 龍男 作詞/平吉毅州 作曲)

2. 題材設定の趣旨

本学級の児童は、これまでに〈ファランドール〉や〈威風堂々〉などの鑑賞を通して、曲想及びその変化と音楽の構造(旋律の反復, 変化, 音楽の縦と横との関係などの特徴)との関わりを理解するとともに、音楽の特徴についての知識を得たり生かしたりしながら、曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く学習を経験してきている。また、〈いつでもあの海は〉などの歌唱を通して、旋律の特徴をよりどころに、「旋律の音の上がり下がりが印象的なので、それらに合わせた強弱を工夫し、フレーズを滑らかにつなげて歌おう」のように、音楽表現に対する思いや意図をもつ学習を進めてきた。そこで、6年生では、さらにいろいろな特徴をもつ曲と出会うことで、曲想(及びその変化)と音楽の構造などとの関わりを理解しながら、曲全体を見通して、曲のよさを見だし聴いたり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して歌ったりしてほしいと考え、本題材を設定した。

鑑賞教材では、〈ハンガリー舞曲 第5番〉を扱う。この曲は、力強い旋律が何度も繰り返されたり、軽やかな旋律や滑らかな旋律が現れたりして、旋律の特徴の変化に伴って、次々と曲想も変化していく。そのため、曲全体を見通して、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりを理解できるようにすることが大切である。また、歌唱教材では、〈気球にのってどこまでも〉を扱う。以前に集会で歌ったことがあるため、多くの児童は旋律を口ずさむことができる。軽やかな旋律、のびやかな旋律、弾んだ旋律など、旋律の特徴の移り変わりによって曲想が様々な変化する曲である。曲想の変化という点で〈ハンガリー舞曲 第5番〉と共通点があるため、鑑賞で学んだ曲の特徴の知識を生かしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ学習の充実が期待される。

以上のことから、本題材においては、A表現の(1)歌唱の「ア、イ及びウ(イ)」と、B鑑賞の(1)「ア、イを、〔共通事項〕(1)アと関連付けながら扱う。なお、〔共通事項〕の「音楽を形づくっている要素」のうち、思考・判断のよりどころとなるものとして、特に「旋律」を核としながら、「反復」「変化」「音楽の縦と横との関係」を扱う。

3. 題材の目標

- 曲想及びその変化と、音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
- 旋律の反復, 変化, 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。

○曲の特徴を図形楽譜に表して友達と交流したり，歌唱表現を工夫したりする学習に興味・関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。

4. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>☒思いや意図に合った音楽表現をするために必要な，呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない，響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>☒曲想及びその変化と，音楽の構造などとの関わりについて理解している。(鑑賞，歌唱)</p>	<p>☒①〈ハンガリー舞曲 第5番〉の旋律の反復，変化，音楽の縦と横との関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>☒②〈気球にのってどこまでも〉の旋律の反復，変化，音楽の縦と横との関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p>	<p>☒曲の特徴を図形楽譜に表して友達と交流したり，歌唱表現を工夫したりする学習に興味を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞，歌唱)</p>

5. 題材の学習指導計画（全5時間）

次	時	主な学習内容・学習活動	評価規準
1	1	・〈ハンガリー舞曲 第5番〉の旋律の反復，変化，音楽の縦と横との関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさなどを感じ取りながら，曲の特徴を自分なりに図形楽譜に表す。	
	2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・図形楽譜を見比べながら，曲の各部分とその移り変わりの特徴を共有し，曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解する。 ・曲の特徴についての知識を得たり生かしたりしながら，友達と曲のよさについて話し合い，音楽的な根拠に基づいて，自分の考えを紹介文に表し，曲全体を聴き深める。 	
2	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・〈気球にのってどこまでも〉の曲想及びその変化と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。 ・曲の特徴にふさわしい表現をするには，どのように工夫したらよいかについてグループで話し合い，思いや意図を膨らませる。 	
	5	・グループの思いや意図をクラスで共有し，それにふさわしい表現になるよう，発音の仕方や響きのある歌い方などの技能を身に付け，音楽表現を高めていく。	

<p>3. 話し合ったことを全体で共有し、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりを自ら見いだしていく。</p> <p>〈児童の発言やワークシートの記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめと終わりのほうは角ばった形が多くて、真ん中は柔らかい形が多いのは、旋律の感じがそうになっているからだね。 ・途中で星を描いている人が多いのは、軽やかなリズムの旋律が出てきてキラキラした感じの曲想になっていたからだね。 ・「ア-イ-ウ-エ-ア-イ」という細かいまとまりに分けたけれど、それを大きく捉えると、前に学習した「A (アイ) - B (ウエ) - A (アイ)」の形になるんじゃないかな。 	<p>◇友達の意見が音楽のどの部分に関するものなのか、実際に音楽を聴いてその場面を確認しながら比較する。</p> <p>◇電子黒板を活用し、児童のつくった図形楽譜を大きく映し出すことで、実際に図形を見ながら、全体で話し合いができるようにする。</p> <p>◇作成した図形楽譜や、交流場面での発言などから、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりを捉えている姿を価値付けていく。</p> <p>◆曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。【囧 発言、ワークシート】</p>
<p>4. 再度、曲全体を聴き、これまでの学習を通して見いだした曲のよさなどを紹介文に表す。</p> <p>〈紹介文の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この曲の旋律は、追いかける感じがしたり、キラキラする感じがしたり、はじめの感じに戻ったりして、いろいろな雰囲気が楽しめます。このような特徴は、短調から長調に変わったり、リズムが細かくなったりしているからだと思います。 ・私は真ん中の、ゆっくりした感じからキラキラした感じが変わるところが好きです。楽しい気持ちになります。 	<p>◇紹介文には、次の3つを含めるように伝える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どのような雰囲気曲なのか。 ②それはどんな音楽の特徴によって生み出されているのか。 ③自分が見つけたすてきなところはどこか。その理由は何か。 <p>◆旋律の反復、変化、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。【囧 ワークシート (紹介文)、発言】</p>
<p>5. 最後にもう一度、曲全体を味わって聴く。</p>	<p>◇紹介文を発表し合い、曲のよさなどについて共有してから聴かせるようにする。</p>

(清水 匠)

6 音楽科の評価

(1) 「価値付け」「戻り道」としての教育評価

「評価」という言葉は、一般に「価値を定める」という意味で用いられることが多い。しかし、テストの結果を基に、上手な子、下手な子、意欲のある子、ない子、のように児童にレッテルを貼ったり順位を付けたりすることは、学びを支えて成長を支援する評価になるだろうか。

教育における評価は、「判定」したり「値踏み」したりすることではない。そうではなく、児童にとっては、学びの過程にある自分自身を刻々に「価値付け」「認める」こと、すなわち、学びの方向への「指さし」である。教師にとっては、児童の姿、児童の学習の状況を的確に捉えて授業を見直し、次へとつなげていく自分自身の指導の「戻り道」である。授業評価、カリキュラム評価、学校評価など、教育活動を反省、改善する目的で多様な教育評価が行われている。

小学校学習指導要領 第1章 総則「第3 教育課程の実施と学習評価」(2017)の2には、学習の評価について次のように述べられている。

- (1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組

を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

音楽科の評価は、授業において児童の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かす活動である。児童にとっての「価値付け」としての学習評価は、前の学びからどのように成長しているのか、どういった力が身に付いたのかなど、自らの学びを振り返って進歩した自分に気付き、次の学びに向かえるように、学習したことの意義や価値を児童自身が実感できるものである必要がある。学びの過程での肯定的な言葉掛けをはじめとして、教師からの評価や友達との相互評価等を通じて、学習の内容に即した評価が分かりやすくフィードバックされることにより、児童が自分で自己評価できるようになり、主体的に学習したことの意義や価値を感じ取り、これからの学びの見通しをもてるようになることが大切である。

また、教師の「戻り道」としての評価は、育成を目指す資質・能力を身に付けているか、一人一人の学習状況を的確に捉えるものであると同時に、それを踏まえて「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進めるための重要な役割を果たす。目標として示されている資質・能力を育成するためには、指導の前に児童の学習状況を把握するために行う診断的な評価や、指導の最後に学習の成果を総合的・全体的に把握する総括的な評価も含め、何を、どのような場面で、どのような方法で指導をし、指導を通した児童の変容をどのように評価したらよいのかを考え、**指導と評価の一体化**を図ることが必要である。

(2) 通知表と指導要録

ところで、学校での評価、と言われてすぐに思い浮かぶのは通知表（通信簿）であろう。これは学校の責任において出すものであって、校長の判断で学校の教育活動にふさわしい形に工夫することができる。「通信」簿の字義どおり、学校と家庭とをつなぐ大切なコミュニケーション手段の一つであり、保護者に対して学校が説明責任を果たすという機能をもっている。

それとは別に、学校では、児童の学習と行動の記録の原本である「指導要録」が作成される。「指導要録」の作成と保存は法的に義務付けられており、指導に関する記録は5年間、入学、卒業などの学籍に関する記録は20年間保存しなければならない。これらは内申書・調査書等、外部に示す証明の公的な原簿としての機能を備えている。また、継続的に発達の経過を記録して、一人一人の児童についての指導を接続していくカルテとしての指導機能も有する。各学校では、評価規準を作成して学習評価を実施し、指導要録に記録する。

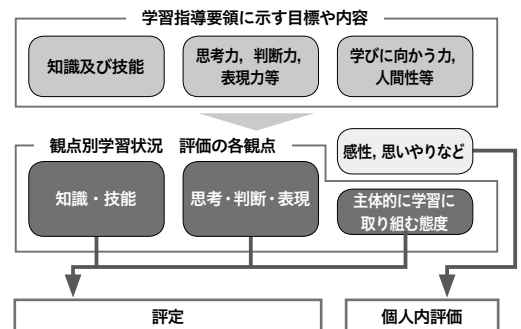
(3) 「目標に準拠した評価」の実施

学習評価では妥当性や信頼性が非常に重要となるが、集団内での比率を決めて児童を序列化して評価を定める「集団に準拠した評価」（相対評価）では、その結果を見ても、これからどう指導していくのかという、教師にとっての「戻り道」は見えない。児童も、成績が上がった、下がった、友達よりもよかった、悪かった、という比較でしか自分の学習を確認することができないし、どんなに努力しても、他の児童と比較したときに到達度が低ければ成績は上がらない。点数順に児童の順位を付

けて学級の中での位置で段階評価をすることは、一見客観的に見えるものの、何より、その集団の中には、できない児童が必ず存在する、という前提に立った評価であるというところに大きな問題性が存在する。したがって、「何が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えて指導と評価の一体化を実現していくために、各教科における学習評価は「**目標に準拠した評価**」（絶対評価）によっている。

指導要録では、学習の状況を総括的に評価した「**評定**」（第3学年以上）が記入されるが、目標に準拠した評価を適切に行うために、各教科の学習を観点に分けて分析的に捉える「**観点別学習状況**」を把握し、「十分満足できる」状況と判断されるもの：A、「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B、「努力を要する」状況と判断されるもの：C、という3段階で評価する。しかし、感性や思いやりなどは観点別の評価や評定になじまないことから、児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については「**個人内評価**」として日々の教育活動等の中で積極的に児童生徒に伝える〔図1〕。

〔図1〕各教科における評価の基本構造

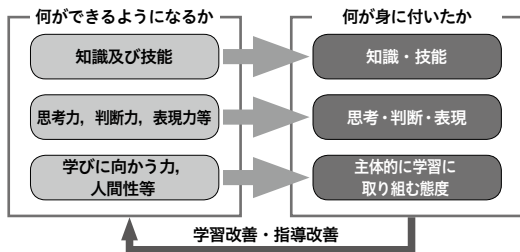


『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】』（2020）p.8に基づく

(4) 学習指導要領の目標と観点別評価

平成29年3月に学習指導要領が改訂され、教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」,「思考力、判断力、表現力等」,「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の三つの柱で再整理された。それに対応して、学習状況を捉える観点も[図2]のように整理された。すなわち、「何ができるようになるか」という育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、「何が身に付いたか」という観点別の学習状況を捉えて、学習改善・指導改善に生かしていくのである。

[図2] 資質・能力の三つの柱と評価の観点



それでは、音楽科における「評価の観点及びその趣旨」[表1]の概要を見てみよう。

【知識・技能】については、「A表現」の題材では「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられ、「B鑑賞」の題材では「技能」を評価対象としないため、「知識」と「技能」は分けて示してある。

【思考・判断・表現】では、一文の中に、①〔共通事項〕(1)ア、②表現領域に関すること、③鑑賞領域に関することが示されている。

「学びに向かう力、人間性等」に示された資質・能力には、観点別学習状況の評価を通して見取ることができる部分と、観点別評価になじまない部分がある。観点別評価では【主体的に学習に取り組む態度】について、「知識及び技能」

の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる学習活動全体に、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組もうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

具体的には、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取組を行おうとする側面や、そうした取組を行う中で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど学習を調整しようとする側面を評価することが求められている。音楽科において重要な資質・能力である感性や情操などについては、観点別評価ではなく、個人内評価を通して把握する。

[表1] 評価の観点及びその趣旨

評価の観点	趣旨
【知識・技能】	・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。
知識	・表したい音楽表現をするために必要
技能	な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。
【思考・判断・表現】	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、②どのように表すかについて思いや意図をもつたり、③曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。
〔共通事項〕(1)ア	
A表現のA	
B鑑賞のA	
【主体的に学習に取り組む態度】	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】』(2020)に加筆

(5) 評価規準と「内容のまとめり」

実際の評価に当たっては、音楽科及び各学年の評価の観点及びその趣旨（本資料20ページ参照）に照らし、目標の実現の状況を判断するよりどころとするために、児童が資質・能力を身に付けた状況を評価規準として設定する。評価規準は、「内容のまとめり」ごとに示された、育成を目指す資質・能力の記述（「すること」）に基づく。ここで言う「内容のまとめり」とは、小学校音楽科における低学年・中学年・高学年ごとに示された下記の事項である（本書210-213ページ参照）。

- ① 「A 表現」(1) 歌唱(ア, イ, ウ)及び
〔共通事項〕(1)
- ② 「A 表現」(2) 器楽(ア, イ, ウ)及び
〔共通事項〕(1)
- ③ 「A 表現」(3) 音楽づくり(ア, イ, ウ)及び
〔共通事項〕(1)
- ④ 「B 鑑賞」(1) 鑑賞(ア, イ)及び
〔共通事項〕(1)

いずれも、アは「思考力、判断力、表現力等」に関する内容、イは「知識」に関する内容、ウは「技能」に関する内容が示されている。〔共通事項〕(1)のうち事項アも、「思考力、判断力、表現力等」に関する内容を示しており、各領域や分野の事項アと一体的に捉える。

目標や評価規準の設定は、教育課程を編成する主体である各学校において、文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』や、国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】』等を参考に、児童や学校、地域の実情に応じて行う。教師が実際の授業に向け題材を構想する際には、内容のまとめりごとの評価規準の考え方を踏まえ、内容のどの事項を題材の学習とし

て位置付けるかを検討し焦点化すると同時に、児童の思考・判断のよりどころとなる主な「音楽を形づくっている要素」（本書215ページ(8)参照）を明確にして「思考・判断・表現」の評価規準に位置付けて、指導のねらいを明確にすることが重要である。

(6) 題材の評価規準の作成方法

指導と評価の一体化を図って作成された題材の目標と評価規準は、学習指導要領で示された指導事項に基づいているため、ほぼ同じような表記になる。したがって、題材ごとの評価規準を作成する場合には、題材の目標を適切に設定し、その目標に即した評価規準を設定する。歌唱の「知識」と器楽の「知識」の評価を統合したり、器楽の事項イ(イ)の「知識」と事項ウ(イ)の「技能」の評価を統合したりして、一体的に学習状況を捉えることもできる。また、すでに多くの児童が習得している技能を生かして活動する場合には、その「技能」を評価の対象としないこともできる。いずれの場合も、題材の評価規準を作成する際には、題材の特徴に応じて、扱う領域や分野名、教材名、楽器名、音楽を形づくっている要素、活動の具体等を適宜含め、次の点に留意する。

【知識・技能】の評価規準

- ・【知識】の習得に関することと【技能】の習得に関することは、原則として分けて示す。
- ・鑑賞の題材には、【技能】に対応する評価規準は設定しない。
- ・学習指導要領の内容として示された事項イ・ウの「理解すること」「身に付けること」等の文末を、「理解している」「身に付けている」のように、児童が資質・能力を身に付けた状

態を表す文言に言い換えて作成する。

- ・【知識】については、次の例の下線部のように、具体的な曲名等を挿入することも考えられる。

例：「とんび」の曲想と音楽の構造との関わり
などについて気付くとともに～

- ・【技能】については、身に付けて表現している状態を評価することになるため、[表1]の「評価の観点の趣旨」で「歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている」と示されているように、扱う分野に応じて選択する。
- ・事項ウにある「次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること」の部分は、学習活動において扱う技能を選択し、下線部のように表記する。

例：思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。

- ・音楽づくりの場合の【技能】は、つくった音楽を演奏する技能を評価するものではない。音楽づくりの事項ウに示された「発想を生かした表現」に必要な技能として(ア)、「思いや意図に合った表現」をするために必要な技能として(イ)が位置付けられていることを確認し、下記のように(ア)(イ)の内容を記述する。

例：発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。

例：思いに合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。

【思考・判断・表現】の評価規準

- ・「評価の観点の趣旨」を参照し、表現領域では、当該学年の①〔共通事項〕(1)ア及び②表現

領域の各分野の事項ア、鑑賞領域では、当該学年の①〔共通事項〕(1)ア及び③鑑賞領域の事項アに応じて、それぞれの具体的内容に置き換え、文末を「～している」と変更する。

- ・①の〔共通事項〕(1)アに関する「音楽を形づくっている要素を聴き取り」の部分は、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換える。

例：音色やリズムを聴き取り～

- ・学習指導要領の事項アでは、「知識や技能を得たり生かしたりしながら」となっているが、この部分は「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」との関係を示した文言なので、評価規準には含めない。

【主体的に学習に取り組む態度】の評価規準

- ・当該学年の「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成する。
- ・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、題材で扱う「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」から選択して記述する。
- ・「評価の観点の趣旨」の文頭にある「音や音楽に親しむことができるよう」は、音楽科の学習の目指す方向性を示した文言なので、評価規準には書かない。
- ・「評価の観点の趣旨」にある「楽しみながら」の部分は「主体的・協働的」に係る部分で、主体的・協働的に取り組む際の指導の工夫の必要性を示唆している。単に活動を楽しんでいるかどうかを評価するものではない。
- ・文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、教材曲の特徴や学習内容など、児童

に興味・関心をもたせたい事柄に関して記載することが考えられる。

例：友達と呼びかけ合う表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

(7) 評価の方法と指導の改善

評価規準は以上のように観点別に設定するが、相互に関連を図りながら指導と評価を行う必要がある。例えば、【思考・判断・表現】は【知識】や【技能】の習得と深く関わる。それらの観点で課題が見られた時には、【主体的に学習に取り組む態度】を見取ることで要因を探り、適切な働きかけを行う必要がある。具体的には、めあての確認を通して、児童が見通しをもって自分なりに様々な工夫をしながら学んでいけるよう配慮したり、前時までの学習を振り返って考えるなど既習の事項を活用するように促したり、他の児童との協働を通して自らの学習の調整に向かうことができるように働きかけたりするなどして、「努力を要する状況」と判断されそうな学習状況にある児童に対し、「おおむね満足できる」状況となるように支援をしていく。

また、題材を通して継続的に「指導に生かす評価」を行って学習状況の改善を図り、それぞれの実現状況を把握できる段階を見極め、評価場面を精選して全員の観点別の学習状況について「記録に残す評価」を行う。

学習指導案に記載する「題材の評価規準」には、観点別に「全員の学習状況を記録に残す場面」を見取る順に記載する。「指導と評価の計画」では、知識は☑、技能は☑、思考・判断・表現は☑、主体的に学習に取り組む態度は☑と略記する。

「指導と評価の計画」には、評価方法を明記する。発達段階や学習活動の特質、評価の観点を考慮するとともに、児童にはそれぞれ得意な表現方法があることに留意して、多角的な評価方法を取り入れ、総合的に判断することが必要である。例えば、行動や表情の観察、発言内容、演奏の聴取、つくった作品、ワークシートや学習カードの記述など、振り返りにもつながり、児童が自分に合った学習の調整の仕方を見いだせるような方法を工夫することが望ましい。

教科の特性を考えれば、言語表現では捉えられない内容も多いため、学習に応じた評価の方法をよく考えて計画する。学習者の作品や実演などを手掛かりとするパフォーマンス評価の考え方を取り入れたり、児童の学習の過程や成果などの学びの履歴を蓄積して、成長の過程、学習状況を振り返ることのできるポートフォリオ評価を活用し、児童が教師とともに自ら学びの過程に向き合えるようにしたりすることは、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善にも結び付く。

「指導と評価の一体化」を意識しながら、教師が自ら児童に寄り添う「価値付け」、次の授業への「戻り道」となるような評価を計画し、実施できるようになることが重要である。

参考資料

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】』（東洋館出版社）

志民一成（2020）「新学習指導要領に対応した学習評価（小学校 音楽科）」独立行政法人教職員支援機構オンライン講座：新学習指導要領編

（権藤敦子）

各学年の評価の観点及びその趣旨

第1学年及び第2学年

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P.14)

第3学年及び第4学年

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P.15)

第5学年及び第6学年

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(改善等通知 別紙4 P.15)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】』（2020）巻末資料（pp.87-97）より

『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』

－「評価」関連部分の差し替え用資料－



株式会社 教育芸術社

〒171-0051 東京都豊島区長崎 1-12-14